

地方大学における 高大接続教育の持続可能性

～高校の探究学習の広がりと大学による支援のあり方とは～

本学の高大接続教育事業は、開始から四半世紀を超え、長年にわたり意義ある取り組みとして県内外の多くの方々に知られるようになりました。近年では、高校で『総合的な探究の時間』が始まり、高校生の探究的な学びが広がるとともに、大学への期待も高まっています。今回のシンポジウムでは、これまでの成果を振り返りながら、これからの高校と大学の学びがどのようにつながっていくのかを一緒に考えます。

2026年(令和8年) **2月14日(土)** 13:30～16:55 **会場 大分大学** (経済学部101教室)

基調講演

講師: 大久保 貢 氏
(福井大学アドミッションセンター教授)

本学の高大接続教育について

高大接続教育室長 宮町 良広
(大分大学経済学部教授)

事例発表

大分県立大分舞鶴高等学校(教員及び生徒の発表)
大分県立大分商業高等学校(教員及び生徒の発表)

意見交換

大久保 貢
宮町 良広
池 恩燮(大分舞鶴高校教諭)
俣川 祐輝(大分商業高校教諭)
コーディネーター
青野 篤(大分大学経済学部教授)



大久保 貢



福井大学アドミッションセンター 副センター長。
1961年福井市生まれ、福井大学卒。

静岡北中学・高等学校SSH運営指導委員、福井県工業高等学校マイスターハイスクール運営委員。
2003年から22年連続で高等学校の探究学習の支援を行う。2013～2015年文科省委託事業の「高等学校における多様な学習成果の評価手法の研究」によりルーブリックを開発。それを用いて全国に先駆けて2017年度入試から高等学校の探究学習を評価する「高大接続入試」を導入・拡大。



